愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】音楽		
担当者(Instructors)	酒井 国作	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	1	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

音楽基礎の内容に続くものである。ピアノの表現技術は、一朝一夕には身につくものではない。自分で表現していることが聴取者の感性に訴えないことも少なくない。そこで、本演習では、子どもの音楽活動を支える基礎的な技能として、さらに高度なピアノ演奏技術の習得を目的としている。初等科音楽授業の歌唱教材の弾き歌い、保育の際の弾き歌いや子どものリズム表現に対応できる基礎的な演奏技術を身につけることや、演奏技術が高まった者には、豊かな表現方法についても学習する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	クラス内発表は、グループワーク形式で行い、互いの演奏での気づきを書き話し合うことで、ピアノ演奏表現の本質の理解に繋げる

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション、自己課題の明確化	講義の概要、注意事項（受講ルール、教室、電子楽器の使い方）を説明する。前期に弾く続き、楽譜と演奏の基本を学習する。夏休みの課題を弾く。自己課題を明確にする。	□
第2回	個人レッスン課題（1）バイエル59番	バイエル59番を選択し、8分の3拍子の音楽の流れを理解する。経験者は進度に合わせて選曲し、楽曲分析をした上で効果的な表現方法を学ぶ。	□
第3回	個人レッスン課題（2）バイエル60番	バイエル60番を選曲し、対位法による作曲形式を理解する。経験者は進度に合わせて選曲し、楽曲分析をした上で効果的な表現方法を学ぶ。	□
第4回	個人レッスン課題（3）バイエル63番	バイエル63番を選曲し、高音域の読譜に慣れ、強弱による表現の効果を理解する。経験者は進度に合わせて選曲し、楽曲分析をした上で効果的な表現法を学ぶ。	□
第5回	個人レッスン課題（4）バイエル「ハ調長音階の曲」	バイエル「ハ調長音階」を選曲し、音階を理解するとともに奏法を学ぶ。経験者は進度に合わせて選曲し、楽曲分析をした上で効果的な表現方法を学ぶ。	□
第6回	個人レッスン課題（5）バイエル65番	バイエル65番を選曲し、ハ長調の音階奏法に慣れる。経験者は進度に合わせて選曲し、楽曲分析をした上で効果的な表現方法を学ぶ。	□
第7回	個人レッスン課題（6）バイエル68・69番	バイエル68・69番を選曲し、重音奏法になれるとともにト長調の音楽を感じ取る。経験者は進度に合わせて選曲し、楽曲分析をした上で効果的な表現方法を学ぶ。	□
第8回	個人レッスン課題（7）クラス内発表	クラス内発表を行う。互いの演奏を聴きあい感想を書く。書くことで表現を意識化し、自己課題を明確にする。	□
第9回	個人レッスン課題（8）バイエル「ト調長音階の曲」	バイエル「ト調長音階」を選曲し、音階を理解するとともに奏法を学ぶ。経験者は進度に合わせて選曲し、楽曲分析をした上で効果的な表現方法を学ぶ。	□
第10回	個人レッスン課題（9）バイエル72番	バイエル72番を選曲し、ト長調の音楽の良さを感じ取るとともに、主旋律を生かした奏法を理解する。経験者は進度に合わせて選曲し、楽曲分析をした上で効果的な表現方法を学ぶ。	□
第11回	個人レッスン課題（10）バイエル「二調長音階の曲」	バイエル「二調長音階」を選曲し、音階を理解するとともに奏法を学ぶ。経験者は進度に合わせて選曲し、楽曲分析をした上で効果的な表現方法を学ぶ。	□
第12回	個人レッスン課題（11）バイエル80番	バイエル80番を選曲し、ニ長調とト長調それぞれの音楽の良さを感じ取る。経験者は進度に合わせて選曲し、楽曲分析をした上で効果的な表現方法を学ぶ。	□

第13回	個人レッスン課題（12）バイエル「イ調長音階の曲」	バイエル「イ調長音階」を選曲し、音階をりかいするとともに奏法を学ぶ。経験者は進度に合わせて選曲し、楽曲分析をした上で効果的な表現方法を学ぶ。	□
第14回	個人レッスン課題（13）バイエル81番	バイエル81番を選曲し、イ長調とニ長調の音楽の良さを感じ取るとともに、アウフタクトの音楽を理解する。経験者は進度に合わせて選曲し、楽曲分析をしたうえで効果的な表現方法を学ぶ。の奏法を習得する。経験者は進度に合わせて選曲する。コードネームを学ぶ。	□
第15回	個人レッスン課題・クラス内発表（音楽的な理解を深める）	試験を想定して、学習成果をクラス内で発表する。1年間の内容を整理し、総括する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

ピアノ演奏は、予習・復習が極めて重要である。前回の課題内容を踏まえて、繰り返し練習してから授業に臨むことが必須である（1時間程度）。その際、音源で模範演奏を聴くことで音楽表現理解の学びへ繋げる。また、「音楽基礎」の楽典課題や随時出される楽典復習課題を通して、楽典の知識の定着を図るとともに、ピアノ課題の学習に生かすことができるようにする。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回のピアノ課題曲の演奏に対して、フィードバックをする。 中間発表では、クラスで互いに聴きあい、共有する機会を持つ。 ピアノ技術を支える楽典は、毎回添削の上、返却する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	音楽基礎に続き、初心者はバイエル教則本修了程度、経験者はさまざまな音楽作品を通して音楽性を高めることができる。 音楽基礎の発展として、保育士・幼稚園教諭・小学校教員としての基本的な音楽的能力を高めることができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
0%	50%	0%	50%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

子どもの歌のクラス内発表（弾き歌い・歌唱）は、クラスで課題を共有し、音楽能力の育成につなげる。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	『標準バイエル教則本』全音楽譜出版（初心者）	9784111010103
2	学習進度の合わせた教材を選択する（経験者）	
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて、ピアノ演奏に関する楽譜・図書を紹介する	
2	必要に応じて、資料を配布する。	
3		
4		
5		